



今年の夏は、大変暑い日が続きましたが、皆さんお元気でしたか。今年、ロンドンオリンピックで熱い戦いの末、日本人選手が過38個のメダルを獲得しました。私は連夜の観戦で眠れない夜が続が、選手の活躍を見て感動し、元気を頂きました。こうした選手たちの努力が報われ4年に1回の舞台で花を咲かせることができました。吉野の将来のために、いろんな努力を続けていくことが大切です。

先日、テレビを見てみると、「医療は究極のサービス」と言っている医師がいました。

まさしく、医療は、私たちが安心して暮らしていくうえで大切なことです。今回は、吉野町の医療について触れてみたいと思います。

## 《新たな医療の提供体制》

吉野・大淀・県立五條の公立病院は単独での経営が厳しくなり、医師・看護師も不足して、診療・入院できる患者の数が限られたり、本来の救急病院としての機能が果たせなくなってきました。

そこで、平成27年に3つの救急病院を1つにまとめて、24時間、365日救急患者を受入れできる救急病院を大淀町の福神駅前に新設し、吉野病院と県立五條病院は身近な外来診療を行う地域医療センターに生まれ変わる事となりました。

- ・ 新しい救急病院は、
- ・ 24時間年中無休の救急医療
- ・ 吉野病院になかった診療科の受診(神経内科・眼科・泌尿器科等)



- ・ 大規模災害時の医師派遣
- ・ 医師・看護師の十分な確保が可能となります。

- ・ 吉野病院は今後、地域医療現在センターとして、
- ・ 内科・整形外科など身近な外来診療をする病院
- ・ 救急病院を退院後の方々や自宅へすぐに帰れない方など長期療養の患者の受入ができる療養型の病院となります。



いづくため、在宅患者を巡るの確保を要し、そして福神病院への通院近鉄電車の割ルバスの利用(出前型乗合)を働きかけて